

1	スクール・ミッション	「 自主協調 」（自主的に行動し互いに協力すること）「 質実勤勉 」（中身が充実していて飾りがなく心身共に強く逞しいこと）「 進取独創 」（将来を予測し積極的に挑戦すること）「 敬愛礼讃 」（礼を重んじ人の立場を尊重し敬い愛すること）を教育目標とし、進学を重視した分かり易い学習指導、希望進路を叶える進路指導、ルールとマナーを重視する生活指導、活発な部活動と学校行事を中心とした教育活動を通じて、心身共に健康で、自主的精神を養い、国際社会に貢献できる生徒を育成する。						
2	スクール・ポリシー	(1) グラデュエーション・ポリシー （卒業までに次の資質・能力を育みます） ①問題・課題を自ら発見し、解決策を実行し、振り返りをするによって自己肯定感を高める力 ②確かな学力を身に付け、自ら将来設計をし、社会で自身の役割を追求できる力 ③多様性を理解し共有すると共に、グローバル社会において他者と協働して共に生きる力 (2) カリキュラム・ポリシー （本校では次の学びを行います） ①1・2学年で基礎・基本の学力の定着を図るため、国語（古典）・数学・英語で習熟度別学習を展開する。 ②2学年で各生徒の進路希望に応じた文系理系の科目選択について、ガイダンス・面談等を通して丁寧に指導する。 ③3学年で4年制大学受験対策を重視すると共に、多様な進路希望に対応した豊富な自由選択科目を設定する。 (3) アドミッション・ポリシー （本校では次のような生徒を待っています） ①本校の校訓・教育目標について共感し、入学の意思が確かな生徒 ②集団生活のルールとマナーを遵守し、他の人を思いやることができる生徒 ③HR活動、各種行事、生徒会・委員会活動等の特別活動、部活動に積極的に取り組み、学校生活の活性化に貢献できる生徒 ④4年制大学進学をはじめ、進路に対して目的意識をもち、進路実現に向けて主体的に学習する生徒 ⑤学教意欲・態度が共に良好であり、基礎学力の定着を基盤として、国際理解教育等、発展的な学習に積極的に取り組む生徒		3	目指す学校像	地域に根ざした伝統校として4年制大学進学を中心に、アクティブ・ラーニングを推進する高等学校として都民の期待に応えるとともに、部活動加入率の向上と、志の高い生徒が集う高校として「文武両道」を推進する。きめ細かい生活指導を実践して地域からの信頼をより確かなものとし、世田谷区において希望の進路を実現する中堅高等学校として、本校を一層発展させる。また、全ての校務を協働して組織的にを行い、「チーム桜町」として中堅・若手教職員の人材育成を図る。そして、本校を巣立った教職員は、何れの学校でも活躍できる「 人材育成の桜町 」を目指す。 (1)「 時を守り、場を清め、礼を正す 」生徒を育成する学校 (2)基本的生活習慣を定着させ、学習に対して興味・関心をもち、主体的に学習する態度を身に付けさせる学校 (3)「個性の尊重・価値観の多様化」と「わがまま」を見極めた指導を実践し、自主性に名を借りた放任はしない学校 (4)新しい学びの柱「デジタル」について生徒が主体的にICTを活用し、生徒自ら学びのプロセスを身に付けていく学校 (5)新しい学びのもう一つの柱「リアル」について「探究」学習を通して主体的に考え、課題を発見・提案し、実行する生徒を育てる学校 (6)計画的、組織的に進路指導を行い、生徒一人一人の高い志をもった進路志望の実現が図れる学校 (7)創立88年の伝統を基盤としながら、生徒自らが「学校を創る」気概を育む学校 (8)生徒、保護者、校友会（同窓会）、地域関係者及び教職員が愛し、誇れる学校		
4	中期的目標と方策	【 目標1 】 大学入学共通テストにも対応できる学力の養成 （1） 高い志をもち、諦めず現役で4年制大学・短大に合格できる学力の養成 《方策1》アクティブ・ラーニングを推進する学校として、主体的な学習を促す授業改善、補習・補講の充実を図る。《方策2》進路指導部が統括し、主導的立場で学年と連携することで、全学年が一貫性のある質の高い進路指導を行う。 《方策3》自分の可能性を信じ、諦めず高見を目指す進路指導を推進する。《方策4》令和6年度から引き続き高等学校DX 加速化推進事業指定を受け、東京都教育施策「TOKYOスマート・スクール・プロジェクト」に基づきICTを活用し、生徒の学力を最大限に伸ばす学びを実践する。（本方策によりエビデンスによる質の高い教育に向かうことができる。また、採点・評価・分析等の年間業務縮減効果が期待でき、ライフ・ワーク・バランスの推進にも適う。） 《方策5》日東駒専以上のレベルの大学合格に必要な学力となる英語検定2級・準2級の学力を養成する。進路指導部と英語科が連携し、各級の合格を目指した学習指導を推進する。《方策6》生徒・保護者対象の進路説明会を充実させ、家庭と一体となった進路指導を進める。 《方策7》探究学習推進委員会が主導し、各学年と連携しながら、総合的な探究の時間の学習を標準展開し充実させる。《方策8》国際理解教育…中国北京匯文中学校との姉妹校提携事業を推進する。事業を通して多様な言語や異文化、政治体制を理解・尊重し、自由で開かれた国際社会の構築に貢献できる人材を育成する。《方策9》4年制大学進学実績70％に迫る中堅校として、学校運営連絡協議会の学識経験者を中心とした協議議員からの進路指導、授業力向上に関する評価、助言を分析し採り入れていく。 【 目標2 】 生徒指導3類に基づく生活指導・教育相談の充実 （2） 誰一人取り残さず、全ての生徒が将来への希望をもって自ら伸び育つ教育 《方策10》「文武両道」つまり学問と部活動の相乗効果で人間形成を図る。 《方策11》「発達支持的生徒指導」について授業を中心に実践する。服装・頭髪指導の徹底、基本的生活習慣の定着を図り、高校生の本分である学習に向かう姿勢と、一人一人が桜町高等学校を代表している自覚を持たせ、地域に信頼される立ち居振る舞いを育む。 【 品格 】校則を励行することと【 自由 】主体性の発揮は、相反するものではなく両立できるもの（両立すべきもの）であることを、「校則」を改善・発展させていく過程で生徒に考えさせていく。 《方策12》「課題予防的生徒指導」スクールカウンセラーと連携した教育相談推進委員会の充実と、生徒へのきめ細かな支援を行う。「困難課題対応的生徒指導」生徒がSOSを出しやすい環境を整えるとともに、生徒の心に寄り添う支援を行う。 【 目標3 】 人と関わる力や、分析力、豊かな心の育成 （3） コミュニケーション能力を育む教育 《方策13》生徒の自主性や協調性、創造性を育む行事の企画と運営を行う。《方策13》図書館司書と各教科・HR担当が連携して、第6次「学校図書館図書整備5カ年計画」に呼応した環境整備と、読書習慣を定着させる。「新聞複数紙紙配備」を活用し物事を多面的に捉える視点を養う。 【 目標4 】 効果的な募集・広報活動 （4） 《方策14》媒体対応（学校案内・ポスター・ホームページ）、校外説明会対応（中学校訪問、上級学校訪問受入、出前授業・塾・予備校フェア）、塾・予備校対応（説明会・訪問・塾生対象説明会）について、毎年のルーティーンではなく中学生とその保護者の視点やニーズを加味し、検証結果に基づき常に計画を刷新し実施する。《方策15》私学との差が顕著であり中学生とその保護者からの要望が強いトイレの改修に取り組む。						
5	今年度の柱	中期的目標の達成に向けた今年度学校経営計画の柱は、次のとおりとする。 （1）募集・広報活動を組織的に展開し、ICT 機器を有効活用しながら発信力を強化する。本校のスクールポリシーを理解した志の高い本校志望の中学生を募集する。 母校愛を育むシンボル、そして地域と本校を繋ぐマスコット「まちこちゃん」（全校公募優勝作品）を全面展開する。桜新町商店街振興会協賛「令和8年度版サザエさんMAP」本校広告掲載（発行部数15,000部R8.4.12完成）を有効活用・積極展開する。 （2）ICTを活用した教育を推進する。 ①学習のハイブリッド化により、災害時等にも学びを止めない学習システムを構築する（オンライン活用）。②生徒の学習データ等を一元化する基盤を構築する（定期考査採点・分析システム→教育ダッシュボードへのデータ集約→学習支援クラウドサービス〔生徒1人1ID〕）。 （3）基礎学力を育むため、漢字検定をはじめ、英語検定については2級・準2級取得に向け、進路指導部・英語科が連携し受験者数増加を促す。 あわせて合格者増に向けた学習指導を強化する。 （4）国際関係の影響を受け北京匯文中学校との姉妹校交流事業今年度中止に伴う代替策として、教育庁グローバル人材育成部国際交流教育課と連携した国際理解教育授業（年間36時間・外国語講師派遣）を充実させる。 本事業を継続的・組織的に展開するため、グローバル教育推進委員会を設立する。 （5）主体的・対話的で深い学びを重視したアクティブ・ラーニングを推進し、思考力・判断力・表現力を育成するとともに、大学共通テストを突破できる学力の養成を図る。 （6）実験・実習・実技・ディスカッション等対面型学習の特性を生かしたアクティブ・ラーニングを重視し、教育効果の高い授業改善を進める。 （7）部活動における豊富な練習や創作活動、調査・研究を通して、本校の名誉ある代表であることを自覚させ、輝かしい実績を残すとともに、部活動で培った「協調性」「規律」「我が校を代表する誇り」を学校生活やHRに還元する。 （大会実績のみならず、地域からの信用を重視）。 （8）自転車通学におけるヘルメット着用指導を年間通して徹底し、セーフティ教室や玉川警察署との連携により、登下校時の安全確保に努める。 （9）生徒の健康管理については、「熱中症対策ガイドライン」（令和4年7月東京都教育委員会）に基づき、暑さ指数（WBGT）の活用、適切な水分・塩分補給、活動前の体調確認を徹底し、熱中症予防に適切に対応する。 （10）組織的で一貫性のある生活指導を行う。 頭髪・服装・遅刻等の改善を図り、高校生としてふさわしい立ち居振る舞いを励行させる。自主性に名を借りた放任は行わず、毅然とした指導ときめ細かな支援を両立させる。 （11）日々の生活指導を通して、制服は単なる「服」ではなく、母校への誇りを育み、地域からの信頼を築くための「教科書」であるとの自覚を生徒に持たせる。 （12）当該学年・HR担任中心の抱え込み型生徒指導から、関係分掌・関係機関と連携した協働型生徒指導へ転換する。 教育相談（特別支援教育）推進委員会を軸に、ケース情報を全教職員で共有し、個に応じた組織的かつ一貫性のある指導・支援を行う。 （13）特別支援学校、特別支援教育課、特別支援教育心理士と連携し、特別支援教育の基盤整備と教職員のスキルアップを図る。指導法および評価方法について研究を進める。 （14）チャレンジサポートプランを踏まえ、不登校・長期欠席等の生徒に対する早期把握と継続的支援を行う。 校内外の関係機関と連携し、生徒一人一人の状況に応じた学習機会の確保と居場所づくりを推進する。 （15）いじめ総合対策【第3次】を踏まえ、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に向けた授業および教職員研修を計画的に実施する。 全教職員が共通認識のもと組織的に対応できる体制を整える。 （16）自殺対策基本法を踏まえ、生命尊重教育やSOSの出し方に関する教育を計画的に実施する。 あわせて、校内外の相談窓口について生徒・保護者への周知を徹底し、安心して相談できる学校環境の整備を図る。 （17）若手・中堅教員が募集・広報活動に積極的に関わることで、学校経営の視点や地域からの信頼の重要性を学ぶとともに、中学生および保護者のニーズを把握するOJTの機会とする。						
6	今年度の取り組み目標・方策	【1】 学習指導 ①全教員が授業改善に取り組み、主体的な学習に導く授業を展開する。 ②大学入学共通テストを想定した思考力・判断力・表現力等を問う定期考査を工夫する。 ③城南予備校と連携した土曜講習を通して、大学入試を突破できる実践力を養成する。 ④「指導の重点」を念頭にしてICT機器を活用するなど「分かる授業」を推進する。 ⑤書籍や新聞を活用し、多面的・多角的に考えることを理解させる。また、複数の資料、情報をinputした上で、精査し自分の考えを添えてOutputできる授業・問題作成を工夫する。図書館書籍貸出冊数R6年度2,230冊→R7年度1,278冊に半減した。V字回復させる。 ⑥スタディサプリやタブレット端末を有効活用し、主体的に学ぶ時間を増やすと共に、家庭学習の習慣化を図る。 ⑦進路指導部がスタディサプリ利用実績を把握し、生徒へ有効利用を促す。	【2】 生活指導 ①社会人として守るべきルールやマナーを身に付ける指導を、全教職員で一貫性をもって取り組む。 ②自主自律の心を育み、自ら考えて行動する生徒を育成する。 ③いじめ・体罰・性暴力を許さないという認識を全ての教職員で共有し、多様な価値観を認め合う指導をする。 ④生徒の様子や変化を敏感に察知し、家庭との連携を密に取ることで不登校やいじめの未然防止に努める。 ⑤自転車通学許可条件である任意保険加入とヘルメット着用を通年に渡って指導を徹底する。（PTA廃止に伴い一括任意保険加入手続きを生徒各自加入への移行を漏れなく完了させる。）	【3】 進路指導 ① 進路指導部が主導し、全教職員で指導のベクトルを揃え、進路情報の収集・共有、指導を行う。 定期的に「進路指導だより」を発行し、生徒の有用な「導き」とする。 ②「自らを高める学習環境と導き」を目指し、諦めず高い志を維持させるように家庭と連携して継続的に指導する。 ③模擬試験の分析結果を教科会、教科主任会で情報共有し、授業と進路指導の面談に反映させる。 ④日東駒専レベル以上を目標例に挙げながら、生徒の高い志と学習意欲を育む。	【4】 特別活動 ①校内規定（活動時間等）を厳守し、学習を疎かにせず特別活動に取りませる。 ②文化祭の企画について遊興・娯楽中心の企画から「文化の創造」に挑戦し企画への転換・発展を推進する。 ③世田谷区、桜町商店街、中学校等と連携し、さくらまつり、ねぶたまつり等に積極的に参加しボランティア精神、公共心を育む。 ④全校生徒が「校歌」が歌える学校にすること。（教科・始業終業式・式典・HR・昼の放送で取り組むこと。）	【5】 心身の健康づくり ①教育相談推進委員会を適宜開催し、ケース資料について情報共有すると共に、指導と支援について検討する。 ②2人体制となったSCを活用し、学校全体の相談体制・カウンセリング能力のレベルアップを図る。 ③特別支援教育の校内研修を進め適切な指導、支援と評価方法を研究する。 ④「体力テスト」前年度比、向上項目2つ以上を目標とする。 ⑤コンディショニングレポートを適正に運用し、生徒の健康と安全を把握する。 ⑥頭部に関わる怪我は、軽重に拘わらず必ず医療機関に繋げる。	【6】 募集・広報活動 ①HPの積極的な更新と、ICT機器の積極的な活用により魅力ある教育実践を多数紹介し、広く都民に情報発信をしていく。 ②学校案内、ポスターを有効に活用し、組織的に募集・広報活動を展開する。 ③昨年度改善した夏季休業中の学校見学会について現行の午前3コマから、午前午後各2回、1日計4コマ実施を今年度も継続する。 ④生徒会「広報委員会」設立に呼応して生徒参加型の学校説明会、オープンキャンパスを強化し、中学生とその保護者に在校生への理解と親しみを感じてもらう。 ⑤各部活動は、夏季休業中に部活動見学会、又は部活動体験会を積極的に実施する。特に硬式野球部の募集広報を強化する。（文化・スポーツ推薦選抜倍率確保）	【7】 学校経営・組織体制 ①常に教職員のベクトルを揃えるように風通しの良い組織作りを行い、職場環境を整備する。 ②今年度より保護者会を全体会に加え、クラス懇談会の2部構成に改善し、家庭との連携を強化すると共に、中堅・若手教員の保護者対応力のスキルアップも図る。 ③施設改修にきめ細かく対応するなど、経営参画型の経営企画室運営を継続する。 ④働き方改革に基づくライフ・ワーク・バランスを意識し、残業時間の削減等に取り組む。 ⑤服務規律を厳守する。 ⑥個人情報の確認と管理は必ず2メンバーで行うことを周知徹底する。

重点目標・数値目標	(1)大学入学共通テストにも対応できる学力の養成と、組織的な進路指導を推進し、希望進路の実現を図る ① 大学入学共通テスト受験者 100名以上 ② 難関私立大学並びに国公立大学合格者 各2名以上 ③ GMARCH合格者 15名以上 ④ 日東駒専合格者 30名以上 ⑤ 大東亜帝国合格者 35名以上 ⑥ 4年制大学への進学率 70%以上 ⑦ 進路未決定率(進学準備を除く) 0% ⑦ 就職希望者決定率 100% ⑨ 進路指導部が主導して各学年と連携した、模試分析会、ケース会議をそれぞれ年間2回実施する。 ⑩ 模試分析会の精度と還元力を高めるため「学習習慣形成期の生徒」「中層の生徒」「上位層の生徒」毎に分類してきめ細かく課題と指導法について検討する。 ⑪ スタディサプリの利用率を高め、学び直しや、基礎固め、発展的な学習に生徒ひとり一人が積極的に有効活用できるように生徒に働きかける。進路指導部は利用率を具に把握し教員に伝える。 スタディサプリ利用率 全校生徒 50% (昨年度29.3%) 1年生 50% (昨年度35.7%) 2年生 60% (昨年度50.9%) 3年生 30% (昨年度17.4%)		(2)学習指導の充実を図る ①アクティブ・ラーニングを意図したICT機器を活用した授業実施 60%以上 ②補習及び講習 毎週実施 ③長期休業中の補習・講習(発展・標準・基礎) 60講座以上 ③ 各種検定の突破 漢字検定2級合格 5名以上 漢字検定準2級合格 5名以上 英語検定2級合格 20名以上 英語検定準2級合格 40名以上 ⑤家庭学習をはじめとした1・2年生の自学自習の時間 週あたり4時間以上 ⑥各学年、年間2回実施する実力テスト等の成績結果の向上率10% ⑦中部学校経営支援センター随時訪問による授業観察と研究協議 年間1回 ⑧教職員研修センターによる授業観察と研究協議 年間1回 ⑨図書館利用者数 昨年度比10%増以上 ⑩教員相互の授業参観 年間3回推奨 ⑪生徒による授業評価を1学期末迄に実施し、2学期中に授業担当者に還元し、年内の授業改善に還元する。 ⑫中国語選択者 20名以上 ⑬BritishHills等の研修会参加生徒 30名以上 ⑭城南予備校(土曜講習)受講者 150名以上 (R6年度90名 R7年度155名)		(3)生活指導の徹底 自転車通学者のヘルメット着用を義務付け、登下校の安全を確保する。 基本的生活習慣の定着と頭髪・服装指導の徹底を図る 学習に関心が向かう環境を整える 安心して学校生活を送ることができる環境を保証する ①自転車通学者ヘルメット 通年着用率80% ②茶髪等の髪染め・ピアス等の装飾品 0件 服装違反(スカート丈等)を正す指導 組織的で一貫性のある指導 自主性に名を借りた放任はしない指導 毎日 ③いじめ、体罰、性暴力 0件 ④掃除点検カード等を活用した美化活動の徹底 各HR運用率100% ⑤下校時間を厳守し、定時制課程と教育活動の両立を図る。 ⑧ 全校生徒「遅刻0日」 年間5日以上 ⑨ 全校生徒年間遅刻数 5,000回以下 ⑧全校生徒「服装・頭髪違反者0日」 年間5日以上 ⑨TP0を弁えた服装、自転車乗車時のヘルメット着用について、教員自ら模範を示す。		(4)「文武両道」の行事と部活動 特別教育活動の活性化を図り、高い部活動加入率を軸にして、学校生活に積極的に関わる生徒を育成する 併せて部活動の適正運営に努める ①部活動加入生徒は服装・頭髪、高校生に相応しい立ち居振る舞いの模範となること。 ② 用具・道具は都民の血税によって賄われていることを自覚し、感謝して大切に使用し、管理する指導を徹底する。 ③部長会を活用し、生徒に母校愛と責任感を育むと共に、部活動の活性化を図る。 部活動加入率60% ④都大会ベスト32進出レベル 3団体以上 ⑤ ビブリオバトル等文化活動大会参加 5名以上 ⑥部活動の適正な会計処理 顧問は月末、管理職は各学期に1回以上、現金出納簿、現金、預金残高の確認を必ず行う。 ⑦生徒会、部活動を中心に地域と連携し、社会に貢献する態度と、自己有用感を育む。 ⑧文化祭の意義と生徒たちの学びについて、対内部的意義と対外部的意義について生徒に考えさせ、企画の構想と準備に取り組ませる。 ⑨文化祭で過去の訪中研修旅行成果・中国語授業発表ブース(教室)を設置する。		(5)募集・広報活動を積極的に展開し、入学者選抜の倍率を向上させる ① 推薦入試倍率 2.00倍以上 ② 入学者選抜(一次)倍率 1.20倍以上 ③ 学校説明会来場者 1000名以上 ④ 学校見学者数 1600名以上 ⑤ 文化祭来校者数 2500名以上 ⑥ 文化祭来校中学生とその保護者数 600名以上 ⑦HP更新回数 年間500回以上 ⑧入都3年以内の教職員は、校外の学校説明会に年間1回以上必ず参加する。(OJTの一環) ⑨学校案内 印刷数 4500部 ポスター A3版 150部 A4版 300部 ⑩上級学校訪問受入・中学校向け説明会訪問(出前授業含む) 10校以上 ⑪塾・予備校訪問 100校以上		(6)生徒・保護者、地域から信頼される学校運営を推進する ①生徒の授業評価満足度 90%以上 ②生徒の学校評価満足度 87%以上 ③保護者・地域の学校満足度 87%以上 ④保護者への積極的な情報発信 (ア)HP更新の際、保護者コミュニケーションシステムを活用し周知する。 (イ)学校便り、学年便り、HP通信等について保護者コミュニケーションシステムを活用し、デジタル送信する。 (ウ)各学年は定期的に「学年便り」を発行し、保護者に教育活動の様子を具体的に伝える。 (エ)各部活動保護者会を1学期中に必ず開催し、保護者に対して「年間計画」、「1年間に掛かる費用」、「安全管理と対策」について明らかにして、保護者との信頼関係を醸成し協力体制を築く。 (オ)国際理解教育・地域連携等活動実績を積極的に情報発信する。 ⑤服務事故 0件						
	【Ⅰ】生徒の学力向上 (ア)全教員が授業改善に取り組み、予習が前提となる授業展開と、課題を提供し、必ず決められた期限に提出させ、家庭学習を習慣化させる取組を推進する。 (イ)教科会、教科主任会を充実させ、学習進度と評価基準の確認に留まらず、教科の枠を超えた指導法の情報交換、卒業までに身に付けさせる学力観を共有し、指導法・評価の在り方を研究する。 (ウ)教員相互の授業参観(他教科を含む)年間3回以上を推奨して授業力の向上を目指す。また、教師道場等の研修成果を桜町に還元する。 (エ)大学入学共通テストに対応できる学力の養成に全教員で取り組み、生徒の思考力・判断力・表現力等を伸長させる。 (オ)生徒の学習成果をポートフォリオ化して、生徒自身が学習の成果を実感し、進路準備の一助となるようにする。 (カ)授業や図書館から推薦図書を積極的に情報発信し、読書への取組を進める。第6次「学校館図書整備5カ年計画」に呼应して読書に親しむ取組を推進し、併せてプレゼンテーション能力を育む。		【Ⅱ】生徒の家庭学習習慣の確立と自学自習の態度の育成 (ア)文武両道の精神の下「特別活動は学習の上に成り立つ」という意識を醸成し、家庭学習時間の確保に努める。 (イ)授業でICT機器を効果的に活用する。 (ウ)「定期試験に向けた勉強」という意識を大切にしながらも、自ら学ぶことの必要性を意識させる。 (エ)家庭学習を定着させるための自宅学習課題について、教科会・教科主任会を通して、必要かつ適切な質と量を常に検証し、部活動とのバランスを図っていく。 (カ)長期休業中の講習や補習の実施において、予め関係分掌(進路指導部・生活指導部)が協調して、部活動とのスケジュール調整を行う。また、講習や補習は一部の教員のみが行うのではなく、年間一人1回は開講する。(教務部が統括し、年間60講座以上を開講する水準を維持する。※中堅高では60講座開講は平均水準である。因みに昨年度は83講座開講 (キ)生徒自らスケジュール管理に努め自己管理能力を高めるため全学年でNOLTYスコラプログラムを導入する。		【Ⅲ】高い目標を目指す進路指導 (ア)進路指導部がリーダーシップを発揮して、学年と連携した進路指導計画・面談計画の実現を図る。 (イ)模擬試験の結果について、各学年・各教科で速やかに分析して、進路指導の一助とするとともに、必要があれば授業改善に役立てる。 (ウ)模試の分析については、各学力層のデータを分析し、各層に応じた集中的な指導を検討する。 (エ)個別面談や三者面談を充実させ、一人一人の生徒に諦めさせない進路指導を行う。 (オ)学年集会やオリエンテーション、保護者会等の内容を充実させ「現役で4年制大学合格をはじめ、専門学校進学や、希望する職業に就く。」という目標に向かって努力し続けることのできる取組を進める。 (カ)模試分析会の精度と還元力を高めるため「学習習慣形成期の生徒」「中層の生徒」「上位層の生徒」毎に分類してきめ細かく課題と指導法について検討する。		【Ⅳ】自主自律の精神を涵養する生徒指導 (ア)校則の意義や高校生に相応しいマナーや立ち居振る舞いを理解して行動できる生徒を育てる。学校のより良い規則やルールについて新たな提案をすることができる生徒を育成する。その際「責任ある行動」が前提であることを併せて指導していく。 (イ)高校生活を通じて「個性・価値観」と「わがまま」の界(さかい)について生徒に問い続け、真の自律と責任ある行動を身に付けさせる。 (ウ)活動指導計画を、部活動保護者会を通して生徒・保護者に示し、部活動と学習活動のバランスを図る指導を徹底する。 生徒の意識改革を図り、生徒が主体的に、そして協調性を発揮して行事・清掃活動(全Rで清掃点検カード等を運用)に取り組むよう支援する。 (エ)生徒の心身の変化に注意して、健全な学校生活が送れるように情報共有と、組織的指導を推進する。 (オ)特別活動(部活動・学校行事等)の在り方について常に評価し、前年度踏襲に留まらず、常に活動の質の向上に努める。 (カ)桜新町商店街振興組合、自治会が主催する催しや行事に積極的に参加する。併せてボランティア活動にも進んで取り組む。		【Ⅴ】募集対策の一層の強化 (ア)各種説明会等において全教職員が組織的に取組むことにより、効果的な募集・広報活動を展開する。 (イ)生徒の日常の生き生きとした活動が伝わるHP、学校案内、ポスター作成に努め、本校の実践と魅力を積極的に発信する。 (ウ)全教職員が桜町の教育活動、特徴を理解し説明できるスキルを身に付け、組織的に募集・広報活動を展開する基盤を整備する。 入都3年以内の教職員は、校外の学校説明会に年間1回、必ず参加する。(OJTの一環) (エ)中学生とその保護者の目線に立ち、学校説明会や学校見学会、文化祭等学校行事の充実に努める。 (オ)掲示物等の工夫をして、来校者への情報提供を積極的に行うとともに、親切な対応に努める (カ)生徒会委員会「広報委員会」設立に伴い、在校生参加型による学校生活・部活動紹介、施設見学ツアーと、授業公開の充実により本校の魅力発信を強化し推薦に基づく選抜入選倍率2.0倍、学力に基づく選抜入選倍率1.2倍を目指す。		【Ⅵ】組織的・計画的な学校運営 (ア)PDCAに基づく進管理を図り、各学科が連携して学校経営を行う。 (イ)企画調整会議録をはじめ各分掌、委員会、学年の議事録を適正に管理、回覧を行い、学校運営に向けたベクトルを揃える。 (ウ)保有個人情報の取扱いを徹底して事故0とする。 (エ)進路指導・成績管理・入学者選抜業務について、複数による複数回の点検を徹底し、事故0を継続する。 (オ)教科主任会を教科間の垣根を越えた横断的な会議と位置付け、組織的・計画的な学校運営を実践する。 (カ)職員会議、成績会議をはじめ、資料のペーパーレス化を継続し、省力化、経費節減し、定時開会定時閉会を図り、ライフ・ワーク・バランス、SDGsにつなげる。		【Ⅶ】経営企画室職員の経営参画 (ア)教員の意識改革を図り「チーム桜町」として、経営企画室の学校経営参画を推進し、計画的・効率的な予算執行に努める。 (イ)各種事務分担について、随時点検を行い、円滑かつ適切な進を図る。 (ウ)教員が経営企画室と協力して学校を創り上げていく意識を高めていくと共に、進管理を適切に行うことにより、経営企画室職員の残業時間の削減に努める。 (エ)校内施設の保守・点検について、施設検討委員会を中心に計画的に進めていく。 (オ)自律経営推進予算等の適切な編成と計画的な執行、校内施設の有効活用を推進し、教育活動の効果を最大限に発揮させるよう支援する。 (カ)(ウ)を基に、支援センター定例集約日程を視野に、落差金を有効活用できるように計画的な予算執行に努める。		【Ⅷ】PTA、同窓会との連携 (ア)昨年度PTA廃止に伴いPTAOBと残務整理を年度内に適切に完了させる。 (イ)同窓会との連携をさらに深め、在校生支援の方策を模索して、生徒の在学中、卒業後の生徒の見守り、支援策を検討していく。 (ウ)同窓会と連携して学習活動や学校行事に向けた支援を充実させていく。 (エ)桜町会の支援金は「公共の財産」として年度毎に企画調整会議、顧問会議等で検討し、適正配分する。 (オ)「平和について考える学習」について、桜友会と学年が連携して充実した事前学習を計画して実施する。		【Ⅸ】その他の取組みと将来構想 (ア)4年制大学進学実績70%に迫る中堅校として学校運営連絡協議会協議員の学識経験者等による授業参観や進路指導からの解説、指導、助言を受け改善に役立てる。 (イ)「総合的な探究の時間」、部活動等の地域行事への参加、地元中学生に向けたスポーツ教室など、地域との連携や活動への理解促進について、怪我等の保障制度や、感染症予防対策を講じた上で実施する。 (ウ)危機管理能力を高めるため、世田谷区、消防署をはじめ関係機関との連携を密にして「地域との連携を強化した防災教育」を充実させていく。 (エ)2年後に控えた創立90周年に向けて「周年行委員会」を設立し式典開催、記念誌の発行に向けて準備を開始する。
重点目標達成のための具体的方策																	